

6. 1 情報化社会における図書館の役割

情報学者
古瀬幸広

「情報化社会」の定義

「情報化社会」は、電信電話およびマスコミが発達をみせた1960年代に生まれた言葉。一方、1985年頃、ニューメディアブームとともに「高度情報化社会」という言葉が使われたが、既にそれから16年が経過し、なんとなく使い古された感じがしている。

現在の状態を正確に示すなら、「デジタル情報化社会」であろう。その特徴は以下の通り。

- ・ 文字、画像、音声、動画などがすべてデジタル情報として処理されるようになった。たとえばDVD¹。
- ・ マイクロプロセッサやASIC²技術の発展で、それぞれの品位が急激に高まった。とくに音声と動画の品位向上が著しい。
- ・ ブロードバンドの登場により、それらの情報がインターネット上ですべてやりとりされる世界が開かれつつある。

最近の図書館の課題

長く書物は、知恵を集積し、時間を越えて伝達するメディアとして君臨していた。とくに産業革命以後は、大量の複製をもって、情報を安く、確実に伝達する主役として活躍。その背景には、文字が知を伝えるメディアとしてすぐれているということもある。

だからこそ図書館が意味を持ち続けてきたわけだが、最近の問題点も目につくようになってきた。第一は、書物そのものの構造的問題によるものである。第二は、デジタル情報化社会に対応しきれないことによるものである。

書物の難点は、毎年毎年、点数が増え続けるばかり、ということにある。対するスペースの問題は深刻で、とても対応しきれない。閉架書庫に眠る書物ばかりが増え、なかなか取り寄せられない。かつ採せない。これは構造的問題である。

※ 一般の公共図書館では……

そのうえ、貸出率を稼ぐためにベストセラーを多数購入する傾向にある。我々市民は図書館に対して、「書店にない本」があることを期待するのだが、現実はその逆。「書店に平積みになっている本」ばかりが並び、初版部数の少ないものはなかったり、閉架書庫の中だったりする。果たして？

すぐに絶版になる書物（たいていの専門書がそうである）は、必ず図書館で簡単に見つけてほしい。本文に対してgrepをかけられればなおよい。

¹ MPEG2形式でデジタル化した映像データを、片面4.7GBの光ディスクに記録するシステムとなっている。

² ASIC=Application Specific Integrated Circuit

論文の固定化という大きな課題と大学図書館への期待

デジタル情報化社会への対応として、書誌情報をインターネットから検索できるようにしている大学図書館が増えてきた。電子出版物、とくに CD-ROM 出版物を検索可能にしているところも多い。しかし、ここまでで終わっているようである。

昨今の一つの特徴は、研究者や学生が活字出版物以外の情報も参考にするようになった、ということである。言うまでもなく、WWW を使った情報発信とその利用が形態を変えた。とくにアメリカの行政や司法に関することなら、ウェブページを検索して資料を読むだけで、論文が書けてしまう時代となっている。

しかし、研究者にとってやっかいな問題が一つある。ウェブページの URL (URI) が頻繁に変わるため、論文で引用しても、ほとんど意味がない、ということだ。さらに、容易に書き換えられるというデジタル情報の長所が、論文では短所として働くこともある。引用してから出版までの間に、更新されていたりするからだ。

逆に、大学図書館が、研究者の「ウェブ発表」を権威づけする役割を担ってくれば、ウェブに掲載されている情報を利用しやすくなる(引用されやすくなる)。権威づけするのに必要なのは、バージョンを固定することと、それを必ず引き出すことのできる統一アドレスを付与することである。

※ 認証と DNS 的な仕組み

単純には、大学図書館が論文用ウェブページを作り、「絶対にアドレスを変更しない」という意気込みで運営していけばよい話だが、電子認証や電子署名、電子透かし技術などが発展しているから、大学図書館がバージョン固定、改竄防止という権威を認証して論文に付与し、JUSJN コード (Japanese University Standard Journal Number) のようなものを作り、そのコードと実際の URL との対照データベースシステムを分散型で (DNS³的に) 構築するといった試みを期待したい。

まとめ

21 世紀においても、大学図書館は「知の館」であり続けてもらいたい。そのためには、

- 1) 増え続ける書物の情報をデジタル情報技術で管理していくこと
- 2) 利用者に多様な検索手段、アクセス手段を提供すること
- 3) 書物のみならず、WWW に掲載されるデジタル出版物をもターゲットとすること
- 4) ネットワークで各図書館がつながり、効率のよい協業をすること

が必要であると思われる。

³ DNS=Domain Name System